



出雲國
意宇六社めぐり



ガイド
ブック



国引き神話

「今は国は引き訖へつ」と詔りたまひて、
意宇の社に、御杖衝き立てて、
「意恵（オウエ）」と詔りたまひき、
故、意宇と云ふ。

（『出雲国風土記』より）

「意宇」は、古代出雲国の政治・文化の中心地。

そこに鎮座する六つの社
爰に意宇六社とて有、其一ツ也。
六社とハ当社（揖夜神社）及び熊野大社・
大庭かもしの社・山代いざなぎの社・
佐草の八重垣・大草の六所神社是也。
巡拝の人、格別の社なれば一々心をとめて拝礼すべし。

（江戸時代『出雲神社巡拝記』揖夜大明神の条より）

全ての神社が、出雲国造ゆかりの社。

遙か古の故郷から

神々は、何を語りかけてくるのでしよう。



意宇六社 周辺マップ



八重垣神社・神魂神社・眞名井神社・六所神社周辺





八重垣神社・神魂神社・眞名井神社・六所神社周辺

八重垣神社 (F)

神魂神社 (F)

眞名井神社 (F)

六所神社 (F)

八雲病院 (H)

大庭小 (S)

立正大浜南高 (S)

松江生協リハビリテーション病院 (H)

松江総合運動公園

松江協

松江中央

松江工高 (S)

松江西

松江玉造IC

山陰自動車道

花仙山

玉造温泉

至出雲

玉造温泉駅

山陰自動車道

乃木駅

島根県立美術館

大橋川

JR山陰本線

松江駅

プラバホール

松江生協病院

国立医療機構 松江病院

松山トンネル

松江東

室山

しいの実シアター

平原簡易郵便局

平原会館

大石公民館

意宇川

熊野大社 (F)

ゆうあい熊野館

熊野郵便局

至大東

黄泉比良坂

東出雲中

東出雲郵便局

まちなかの駅 女寅10

山陰合同銀行

松江市東出雲支所

東出雲ふれあい会館

東泉寺

揖屋小 (S)

揖屋保育園

揖屋幼稚園

ホック

東出雲中 (S)

揖夜神社周辺

揖夜神社 (F)

東泉寺

揖屋小 (S)

黄泉比良坂

まちなかの駅 女寅10

山陰合同銀行

松江市東出雲支所

東出雲ふれあい会館

東泉寺

揖屋小 (S)

揖屋保育園

揖屋幼稚園

ホック

東出雲中 (S)

東出雲郵便局

まちなかの駅 女寅10

山陰合同銀行

松江市東出雲支所

東出雲ふれあい会館

東泉寺

揖屋小 (S)

揖屋保育園

揖屋幼稚園

ホック

東出雲中 (S)

東出雲郵便局



くまの 熊野大社

鎮座地 松江市八雲町熊野2451番地

御祭神 伊射那伎日真名子 加夫呂伎

熊野大神 櫛御氣野命 (素戔鳴尊の
ご尊称)

御神紋(社紋)
亀甲に「大」文字



出雲国一の宮、日本火之出初之社

ひのもとひのでぞめのやしろ

『日本書紀』斉明天皇5年(659)に「出雲国造に命じて厳かな神の宮を建てさせた」と記され、『出雲国風土記』(733)に登場する4大神のうちの1柱「熊野大神」をお祀りする神社です。「日本火出初神社」とも称され、古くから杵築大社(出雲大社)と並んで出雲国の大社として崇敬されてきました。朝廷からは、仁寿元年(851)に従三位を、貞観9年(867)には正二位の神階を授けられ、明治の制度改正以降は「国幣中社」そして「国幣大社」に列せられました。

◆御本殿および御内殿

大社造。

桁行17尺(5.15m)×梁間17尺(5.15m)

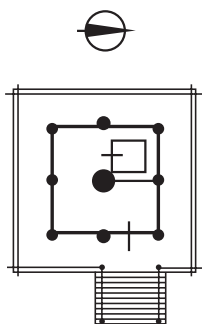
◆本殿内絵画

現在の本殿に絵画は描かれていませんが、出雲大社も寛文造営以前の本殿には障壁画が描かれており、当社も末社殿内に彩雲が描かれていることから察すれば、本殿にも他の5社同様に絵画が描かれていたものと思われます。

◆境内の見どころ

鑽火殿

当社独特の建物で、屋根は萱



葺き、壁は檜の皮で覆われ、竹の縁が廻らされており、内には、火を鑽り出す(火を起こす)神具「燧臼」と「燧杵」が納められています。

唐獅子(狛犬)

製作年…「文政八年西九月」
製作者…「石工万助」

◆境内社/御祭神

稲田神社

奇稲田姫

脚摩乳 手摩乳

伊邪那美神社

伊弉冉尊

荒神社

素戔鳴尊

稲荷神社

倉稻魂命





神魂神社

かもす

鎮座地 松江市大庭町563番地

御祭神 伊弉册大神

〔合祀〕 伊弉諾大神

御神紋(社紋)
二重亀甲に「有」文字



イザナミの大神を祀る「大庭の大宮」さん

当社は、出雲国造の祖「天穂日命」が此地に天降られて御創建になつたと伝えられています。

伊弉册大神をお祀りし、出雲国造が霊亀2年(716)まで当地で自ら御奉仕なさいました。杵築へ移住後も「国造館」は明治の頃まで鳥居近くの土居に構えられており、大庭へお越しの際にお使いになっていました。今も、神火相続式ならびに毎年の新嘗祭には、必ず御参向になります。

武家の崇敬も厚く、近世における社領は、杵築・日御碕に次ぐ石高が安堵され、地元では、「大庭大宮」とも云い、親しまれています。

◆御本殿および御内殿

〔国宝〕現存最古の大社造。

桁行19尺(5.76m)

× 梁間17尺(5.15m)

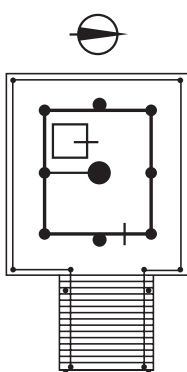
◆本殿内絵画

内壁8面と扉2面、および天井と梁に、神事相撲や彩雲・雲龍などの絵画が描かれています。

◆境内の見どころ

二間社流造の社殿(境内末社「貴布禰・稻荷両神社」)

珍しい神社建築様式の社殿で、国の重要文化財に指定されています。御本殿と



同じ室町時代の優れた建造物です。
灯籠(石段の参道脇)

自然石を積み重ねた燈籠。火袋の窓が社紋と同じ亀甲紋です。小泉八雲も興味を抱き、次のように書いています。「どうしてこれがうまく釣合を保つて据つていたものか、想像もつかないほどの大きな岩を、いくつも積んでこしらえてある大石燈籠がある。(知られざる日本の面影)」

◆境内社・御祭神

御釜宮

武勇社

蛭子社

熊野三社

伊勢社

杵築社

貴布禰社

稲荷社

外山社

荒神社

経津主神ほか2神

蛭児命

速玉男命 事解男命

菊理姫命

天照大神 月夜見神

神素鳴鳴尊

葦原醜男命

閻魔神

倉稻魂神

鷓鴣草葺不合尊ほか1神

奥津彦命ほか2神





眞名井神社

鎮座地 松江市山代町84番地

御祭神 伊弉諾尊 天津彦根命

御神紋(社紋)
二重亀甲に「有」
文字



神名樋野に鎮座する「イザナギさん」

茶白山(かんなび山)の中腹に鎮座し、『出雲国風土記』や『延喜式』神名帳にも記載されている古社で、通称「伊弉諾さん」、参道を「伊弉諾馬場」と云って親しまれています。中世の室町時代には、伊弉册尊をお祀りする神魂神社と併せて「両神魂」とも称されていました。

社有地内にある「天の眞名井の滝」は、古くから信仰の対象として崇められ、その神水は出雲国造の火継神事と新嘗祭に用いられます。

◆御本殿および御内殿

大社造。

桁行16尺(4.85m)×梁間13尺6寸(4.12m)



◆本殿内絵画

内壁5面と扉2面、及び天井と梁に、7月7日の神事や彩雲・雲龍などの絵画が描かれています。

◆境内の見どころ

唐獅子(狛犬)

製作年…「慶応三年丁卯十二

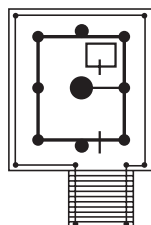
月吉辰」

製作者…「松江立町 石工武

八作」

と刻まれて居り、幕末に活躍

した松江城下町の石工「武八」が製作したものです。高く段積みされた台座の上から参拝者を見下ろして居り、いかにも威嚇している姿の、いわゆる「出雲構え型」と呼ばれるもので、大庭地内では最も大きくて立派な唐獅子です。



◆境内社／御祭神

末那為社 倉稻魂神

兎守社 底筒之男命 中筒之男命

上筒之男命 息長足媛命

山代日子命

◆境外摂社／御祭神

兎守神社 上筒之男命 息長足媛命

底筒之男命 中筒之男命





やえがき 八重垣神社

鎮座地 松江市佐草町227番地

御祭神 素盞鳴尊 稲田姫命

〔合祀〕 大己貴命 (大國主命)

〔相殿〕 青幡佐久佐日古命

御神紋(社紋)
二重亀甲に剣花菱



境内社・御祭神

伊勢宮 天照大御神

天鏡神社 稲田姫命

脚摩乳神社 脚摩乳命

〔合祀〕 譽田別命

手摩乳神社 手摩乳命

貴布禰神社 高麗命

〔合祀〕 倉稻魂命

山神神社 大山祇命

縁結びの大神

素盞鳴尊が、出雲の斐の川上で稲田姫を中にして老夫婦(脚摩乳・手摩乳)が泣いている様を御覧になって、その理由をお聞きになり、斐の川上から7里離れたこの地「佐久佐女の森」の大杉を中心に八重垣を造って姫をお隠しし、「八岐大蛇」を退治して稲田姫をお救いになりました。その後、素盞鳴尊はこの地に宮をお造りになって御夫婦の宮居とされ、「八雲立つ 出雲八重垣 妻込みに 八重垣造る その八重垣を」の御歌の八重垣をとって八重垣の宮となさいました。御夫婦が生活を始められた所であり、縁結びの神社として知られています。

◆御本殿および御内殿

大社造。

桁行14尺6寸(4.42m)×梁間12尺6寸(3.82m)

◆本殿内絵画

旧内壁3面の板壁に描かれていたものが、宝物殿で保存・展示されています。社伝によれば、描かれているのは、素盞鳴尊・稲田姫命・天照大神・市杵嶋姫命・脚摩乳命・手摩乳命の6神像。

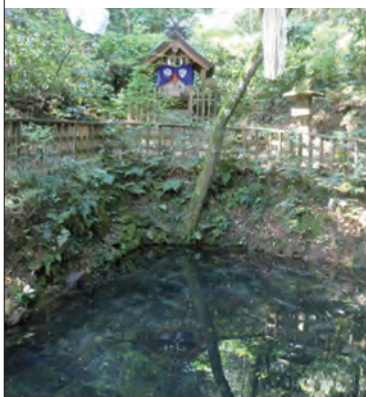
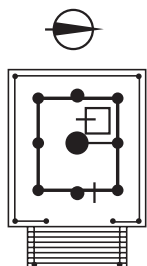
◆境内の見どころ

宝物収蔵庫

本殿内の外陣を飾っていた壁画(国指定重要文化財)「板絵著色神像」(3面)ほかを展示しています。

狛犬

製作年代は不明ですが、この地方のいわゆる「出雲構え型」とは異なる容姿の珍しい狛犬です。





ろくしよ 六所神社

鎮座地 松江市大草町496番地

御祭神

伊邪那岐命 伊邪那美命
天照皇大神 月夜見命

素盞鳴命 大己貴命

御神紋(社紋)
二重亀甲に「有」文字



出雲国の総社

出雲国府に鎮座する神社。古来、出雲国の総社として諸神を併せ祀り、国内の神社に幣帛を班つ祭儀や天下泰平・国家安全・万民快樂・五穀成就の御祈願など年中72度の祭礼を齎行してきました。

神在祭の内容を記した現存最古の史料『佐陀大社縁起』(室町時代)には、全国の神々は先ず当社へお集まりになると書かれ、小泉八雲も出雲五大社の一つとして紹介しています。

◆御本殿および御内殿

大社造。

桁行15尺4寸(4.67m)×梁間14尺(4.24m)

◆本殿内絵画

旧本殿の内壁を飾っていた勅使代参向図や祭儀図等の絵画(5幅1面)が、島根県立古代出雲歴史博物館へ寄託・保管されています。

◆境内の見どころ

唐獅子(狛犬)

製作年…「安政4年丁巳」

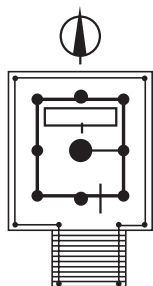
製作者…「阿形」寺町石工林蔵作

蔵作

【阿形】「石工 伊右衛門作」

門作

と刻まれており、松江藩の名工「林蔵」と「伊右衛門」が技を



競って製作したもので、遷宮に際して往還からの直馬場を新造した松江藩との往復文書と符合します。

隋神門

洗練された公家の顔立ちの随神は当地では珍しく、虹梁文様は江戸時代後期の特徴を示しています。

出雲国造の石碑(1対)

両国造(北島齊孝・千家尊福)の揮毫による「出雲国府総社」の石碑。

◆境内社/御祭神

町明神社 青幡佐久佐彦命
王子神社 高御産霊命 神御産霊命
天満宮 菅原道真





揖夜神社

鎮座地 松江市東出雲町揖屋2229番地

御祭神

伊弉冉命 大己貴命

少彦名命 事代主命

御神紋(社紋)
二重亀甲に剣花菱



黄泉がえり神話の聖地

『日本書紀』斉明天皇5年(659)の条に「言屋社」、「出雲国風土記」に「伊布夜社」、「延喜式」神名帳に「揖夜神社」と記され、朝廷からは、貞観9年(867)に従五位上、貞観13年(871)には正五位下の神階を授けられた由緒のある神社です。

近くには、「伊弉諾尊が黄泉の国からお帰りの時、千引き石でお塞ぎになった「黄泉比良坂」は、今「出雲国の伊賦夜坂」と謂う」と『古事記』に書かれたその伝承地があります。また、事代主命の神話も伝承されており、まさに神話の聖地に鎮座する神社です。

◆御本殿および御内殿

大社造。

桁行14尺(4.24m)×梁間13尺(3.94m)

◆本殿内絵画

内壁5面と天井に、御田植神事や彩雲などの絵画が描かれています。

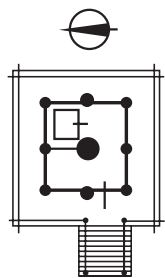
◆境内の見どころ

唐獅子(狛犬)

製作年…「天保十五甲辰年九月吉日」

製作者…「松江堅町石工伊右衛門喜市造」

と刻まれています。



◆亀の台座(亀趺)を持つ燈籠

製作年…「天保六乙未三月十九日」(右・左)

奉納者…「當町網方中」(右・左)

製作者…「石橋町石工唯七作」(右)

「■屋町石工銀次郎作」(左)

と刻まれています。

◆境内社/御祭神

韓國伊太氏神社

素盞鳴尊 五十猛命

三穂津姫神社

三穂津姫神



各社の主な文化財と各社トピックス

熊野大社



◆文化財

〔島根県指定文化財〕

◆紙本墨書「熊野神社文書」
4巻(40通) 1冊1枚

〔松江市指定文化財〕

◆栄螺形兜(1頭)
寛永20年(1643)製作

◆和鏡(7面) 鎌倉時代〜室町時代

◆熊野銅鐸(1個) 弥生時代

〔風土記の丘資料館寄託〕



◆鑽火祭(亀太夫神事)

数あるお祭の中で、最も有名で、熊野大社の特色がよく表れているのがこのお祭です。

毎年、出雲大社の宮司(国造)が「古

伝新嘗祭」に使用する燧白、燧杵の神器を受け取るために熊野大社へ参向し齋行されるお祭で、出雲大社からお供えされた約1メートルの細長い神餅の出来ばえについて、亀太夫という社人が出雲大社の神官へ苦情を申し立て、来年の約束を取り付けた後に神餅と神器の授受が行われるという、一風変わった神事が行われます。

神魂神社



◆文化財

〔国指定文化財〕

◆国宝

神魂神社本殿(1棟) 附内殿・心御柱古

室町時代(正平元年)

◆重要文化財
貴布禰稻荷両神社本殿(1棟)
桃山時代(天正11年)

◆色々威腹巻(1領) 附 神鎧(1双)
室町時代中期

〔松江市指定文化財〕

◆刀(2口) 附 寄進状(尼子晴久・毛利輝元)

平安時代末期〜鎌倉時代前期の作

◆古伝新嘗祭・御釜神事

天穂日命が天降られて以来、歴代の出雲国造が明治3年まで当地で自ら御奉仕になって来た由緒正しい御祭事であり、現在、出雲大社の拝殿で齋行されている古伝新嘗祭の源流です。祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

◆禊家神事

神事の始まる正月4日は、天照大神が御産れになった御七夜の日にあたり、当社御祭神の伊弉册、伊弉諾の両大神が、御誕生をお喜びになって、御産婆神や204柱の御客の神々を御招待になって御七夜の祝宴をなさったと伝え、今日まで厳正で神秘的な神事として古代の面影を伝えています。

眞名井神社



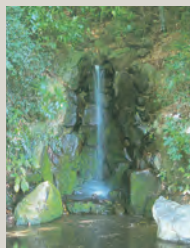
◆文化財

〔島根県指定文化財〕

◆本殿(1棟) 江戸時代(寛文2年)

◆あめのまなのたき 天真名井滝

神社の東方にある滝で、遙か古代の昔から涸れることはなく、江戸時代の古文書に「神代の古跡なり、諸人この滝に願して祈る輩、疾病除かれずと云う事なし」と書かれている神聖な滝です。古来、出雲国造の火継神事と新嘗祭には、必ずこの滝の神水を用いてきました。



◆かんなびぬ 神名樋野(茶白山)

『出雲国風土記』に登場する4つの「カンナビ」(神の宿り座す)山の一つです。

- ・神名樋野(現:茶白山)意宇郡 眞名井神社が鎮座。
- ・神名火山(現:朝日山)秋鹿郡 佐陀大神(佐太神社)が鎮座。
- ・神名樋山(現:大船山)楯縫郡 多伎都比古命の御魂を祀る石神あり。
- ・神名火山(現:仏経山)出雲郡 曾支能夜社(伎比佐加美高日子命)が鎮座。

各社の主な祭祀／カレンダー

1月

神魂神社 禊家神事

2月 3日

各社「節分祭」

4月

13日 午前10時

熊野大社「御櫛祭」

午後3時

熊野大社「御田植神事」

15日 午後3時

六所神社「祈年祭」

17日 午後3時

眞名井神社「祈年祭」

18日 午後3時

神魂神社「祈年祭」

19日 午後3時

揖夜神社「祈年祭」

5月

3日 午後3時

八重垣神社「祈年祭」

6月

30日

熊野大社・八重垣神社・六所神社・揖夜神社

7月

31日

神魂神社・眞名井神社

8月

28日 午後4時30分

揖夜神社「穂掛祭」

8月

28日 午後4時30分

一ツ石神幸祭

8月

28日 午後4時30分

一ツ石神幸祭

8月

28日 午後4時30分

一ツ石神幸祭

8月

28日 午後4時30分

一ツ石神幸祭

八重垣神社

◆文化財

〔国指定文化財〕

◆重要文化財 「板絵著色神像」(3面)
〔松江市指定文化財〕

◆木彫狛犬(1対)
室町時代末期頃

身隠神事

素盞鳴尊が稲田姫のために八岐大蛇を退治なさった時、佐久佐女の森に八重垣を造って、姫の身をお隠ししたという神話伝承に基づく神事です。

享保2年(1717)に編纂された『雲陽誌』に、「四月三日の祭には本社より此御垣の二本の楯の下へ陰陽の神降臨ならせ給ふと申侍社司等大麻をかさし、鉾を持鼓をならし、清酌を御垣に灌たてまつる」、「十一月中の卯の日には八重垣を毎年修理し東西に柵をたて御酒を備、亦己の日の祭、是をみかくしの神事といふ」と書かれています。

鏡の池

佐久佐女の森に避難していた稲田姫が、日々の飲料水とし、また御姿を写された池で、姫の霊魂が深く滲透しているとされ、紙片に硬貨をのせて縁の遅速を占い、早く沈めば良縁早く、遅く沈むと縁が遅いと言われています。



六所神社

◆文化財

〔国指定文化財〕

◆重要文化財 「額田部臣 銘文大刀ほか(一括)」
古墳時代

〔島根県指定文化財〕
◆日本殿壁画 「紙本著色勅使代参 向図」(5幅1面)
江戸時代初期

御田饌祭 (古代律令制時代から続く祭儀)

春の祈年祭、まさに出雲国総社としてのお祭です。南北朝動乱期の観応元年(1350)以前は勅使の御参向があり、以降は熊野大社宮司の代参となりました。その行列を描いた日本殿内障壁画が現存しており、県文化財に指定されています。

9品の熟饌と桜の小枝を献ずる古伝祭で、他に類例を見ません。

六所神社の名称

当社は、室町時代頃になると、国内の天神地祇、天地四方(天地2方と東西南北4方の計6方)の神々を併せ祀る総社としての性格と、「六」の字の持つ意味合いから、「総社」と「六所」が併称されるようになりま



揖夜神社

◆文化財

〔島根県指定文化財〕

◆揖夜神社文書67通
(鎌倉〜明治時代)

穂掛祭

祭の前日に、中海の袖師ヶ浦で禊を修した後、社務所において新米で神酒や焼米などの神饌を調理し、当日穂掛

神(稲穂を榊に掛け瓢盃を付けたもの)を作って75か所に捧げ、その神饌をお供えして田の神に感謝するお祭です。昔はその年の稲の熟し具合によって祭日を決めていました。

一ツ石神幸祭

中海の沖にある禊場「一ツ石」まで、多くの曳き船が列をなして御供するなか、神輿を舟に載せてお運びし、海の安全と豊漁をお祈りします。夜になって神社へお還りになる陸路の還幸行列が、この祭の一番の賑わいです。露天の並ぶ道を、鈴なり提灯を先導に神輿船をお護りしながら各町内の陸船が行列で通り、沿道は大勢の人でにぎわいます。



10月

14日 午前10時 熊野大社「例大祭」
15日 午前10時 熊野大社「鑽火祭」
(亀太夫神事)

15日 午後3時 六所神社「例大祭」
17日 午後3時 眞名井神社「例大祭」
18日 午後3時 神魂神社「例大祭」
19日 午後3時30分 揖夜神社「例大祭」
20日 午後3時 八重垣神社「例大祭」

11月

11〜18日 神魂神社「神在祭」
(秘事)
25日 午後3時 揖夜神社「新嘗祭」

10月(旧暦)

10日 深夜 六所神社「神迎祭」
(秘事)
11日 早朝 六所神社「神在祭」
(秘事)
午後2時 熊野大社「神在祭」

12月

2日 午前11時 熊野大社「新嘗祭」
6日 午前11時 眞名井神社「新嘗祭」
11日 午後3時 六所神社「新嘗祭」
13日 午後2時 神魂神社「新嘗祭」
〔御釜神事〕
15日 午後3時 八重垣神社「新嘗祭」
〔還幸祭〕



1 八雲立つ風土記の丘資料館

展示学習館には、風土記の丘地内出土の遺物をはじめ出雲国風土記の写本、県内の古代史を語る多くの資料が展示してあり、地内には「額田部臣」の銘文入り大刀が出土した岡田山1号墳や風土記植物園もあります。



レンタサイクルもありますので、自転車で巡るのも良いでしょう。

お問い合わせ TEL:0852-23-2485

2 出雲かんべの里

出雲かんべの里は、出雲地方の歴史・文化を学ぶことができる施設で「民話館」「工芸館」「自然の森」の3施設で構成されています。ものづくり体験や昔のお話会など、楽しく学ぶことができる企画がいろいろあります。



レンタサイクルもありますので、自転車で巡るのも良いでしょう。

お問い合わせ TEL:0852-28-0040

学ぶ

4 出雲国府跡

六所神社周辺に位置し、古代の飛鳥時代から中世の南北朝時代にかけての出雲国の政治的中心地で、現在の県庁や市役所などが集まった官庁街にあたります。



巡る

3 ガイダンス山代の郷

島根県最大の古墳であり、日本で初めて前方後方墳と名づけられた「山代二子塚古墳」。約1500年前に人工的に土砂を運び造られたもので、その土層を見学できる施設もあります。ガイダンス山代の郷はその山代二子塚古墳や周辺の古墳、遺跡などの見学拠点です。



お問い合わせ TEL:0852-25-9490

5 出雲国分寺跡



奈良時代、聖武天皇が仏教による国家鎮護のために、全国の国ごとに建立を命じた寺院の跡です。国分寺の多くは、国府域内かその周辺に造営されました。発掘調査が行われ、南門・中門・金堂・講堂・僧坊・回廊・塔などの伽藍配置が復元整備されています。

発掘調査が行われ、南門・中門・金堂・講堂・僧坊・回廊・塔などの伽藍配置が復元整備されています。

6 意宇の杜

「出雲国風土記」の中で最も著名な国引き神話で、八東水臣津野命やつかみずのおみつぬのみことが小さかった出雲国に「国くに来、国来」と各地から土地を引き寄せ、最後に「おゑ」と言って杖をついた場所であり、意宇という地名の由来と記されています。比定地は2ヶ所。



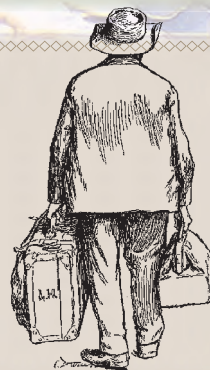
小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は明治23年に松江におりたち、著書「知られざる日本の面影」の中で、この地を「神々の国の首都」と呼び、世界にその魅力を紹介しました。

彼は親交の厚かった西田千太郎氏と、人力車での意宇六社をはじめとする神社を巡っています。

ここを訪れた小泉八雲は、何を感じたのでしょうか。

めぐり
意宇六社

文豪・小泉八雲の



7 岩坂陵墓参考地

古事記には、火の神を生んだことにより亡くなったイザナミを出雲国と伯耆国の境の比婆山に葬ったと記されています。

その陵墓参考地に指定されて、宮内庁により厳重・丁重に管理されているところが八雲町日吉「神納」にあります。径約20メートルの円墳があると言われています。



巡る

8 剣山

記紀神話で、亡くなったイザナミを諦められずに黄泉の国まで会いに行ったイ

ザナキは、蛆がたかり雷がわき出している妻の姿を見て逃げ帰りました。剣山には、逃げる道中、黄泉の国の軍勢が追ってきたので剣を抜かれた場所であるという伝承があります。鳥居の奥の石段を上ると伊弉冉命いざなみのみことを主祭神とする剣神社があります。



10 まちの駅女寅

憩る

東出雲地域の情報案内所です。小さな展示ギャラリーと喫茶、箱ショップなどがあります。人気のうどんは300円。

揖夜神社、黄泉比良坂に行かれる方は、貸自転車(4台限り・無料)もありますのでお立ち寄りください。

お問い合わせ TEL:0852-52-9311



9 黄泉比良坂

記紀神話で、黄泉の国から逃げ帰ってきたイザナキは、黄泉比良坂を千引き石で塞いで追いかけてきたイザナミに別れの呪言を言い渡しました。

古事記には、「黄泉比良坂は今、出雲国の伊賦夜坂という」と記され、その比定地の東出雲町揖屋平賀には、神代の物語を彷彿させる大きな石が青々と茂った木々の中、ひっそりと佇んでいます。



注目ポイント

社紋(神紋)

有

二重亀甲に「有」文字

《神魂神社・眞名井神社・六所神社》
 …「有」の文字は、神有月の「十月」と書く。

※杵築(出雲)大社の古い時代の御紋も同じです。

大社の御文は、亀甲に有の文字なり。有の文字は十月とこれを書く。

当社は陰神にして乾に在る神宮なり。日隅宮と号し、十月を専らにこれを用いる事、神道の深秘なり。故に十月を御文に用い來たる事、当社御内殿・御道具に、亀殼に有の文字これに在る事
 …慶長13年(1608)「国造北島広孝覚書案」



二重亀甲に剣花菱

《八重垣神社・揖夜神社》

…出雲国造家の家紋、現在の出雲大社の社紋(神紋)



亀甲に「大」文字


《熊野大社》



出雲國
意宇六社めぐり



発行
NPO 法人東出雲まちの駅女寅
〒699-0101 島根県松江市東出雲町揖屋 802-2
TEL0852-52-9311



協力
意宇六社会